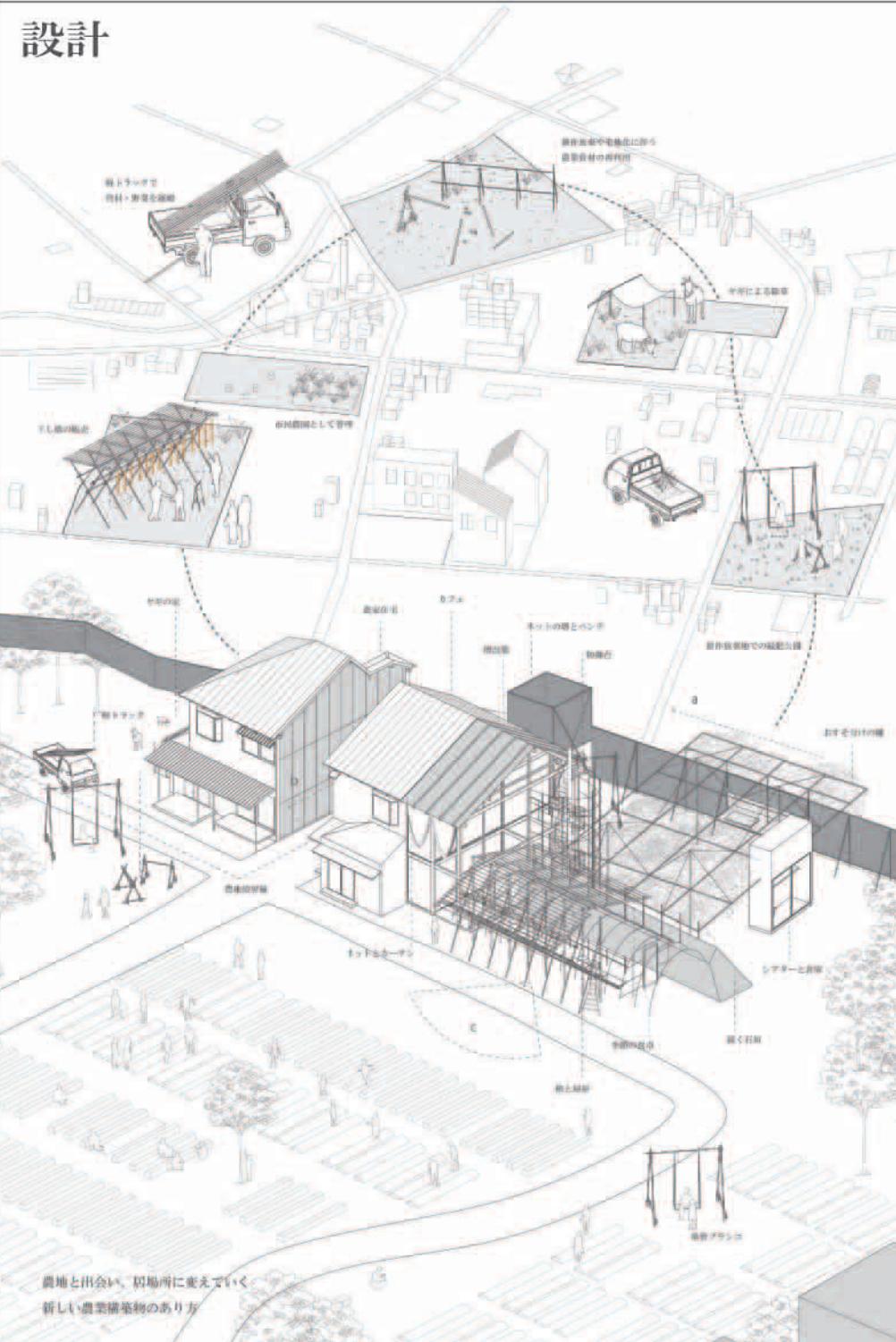
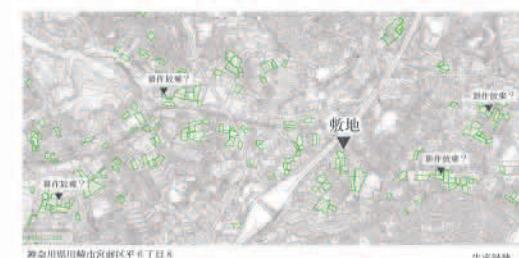


設計

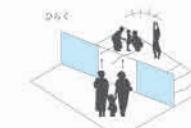


敷地・郊外の都市農地と住宅のコンバージョン



敷地は川崎市で最多の生産緑地面積を有する宮前区で、約4000m²の生産畠地とその農家の木造住宅が対象。現代の生活スタイルでは大きすぎるこの住宅の一部を市民農園に併設したカフェとしてリノベーションします。宮前の名物「鹿児島豚丼」をはじめとした鹿児島の名物を販売する他、地元の野菜や果物を販売するなど、地域活性化に貢献します。

設計手法・3つの体験をつくる



1・農地を街に開くこと

生徒総数の多くは鉛筆ホルダー等に囲まれた机の上に手を置いている。ここで農作業を興味をもぎ、材を作っているのか？何か？といふのが個性！想像力！やナラリは技術空間で大いに作り出す。



2・みんなで育てられること

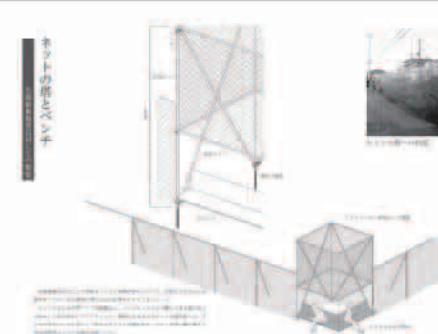
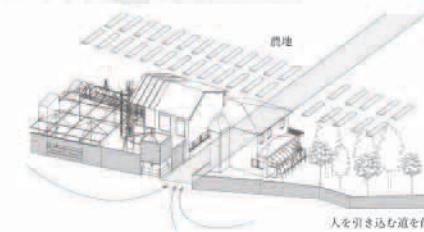
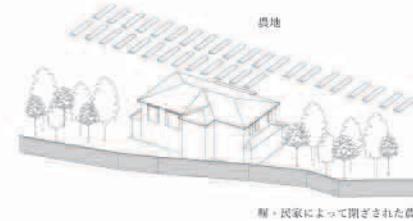
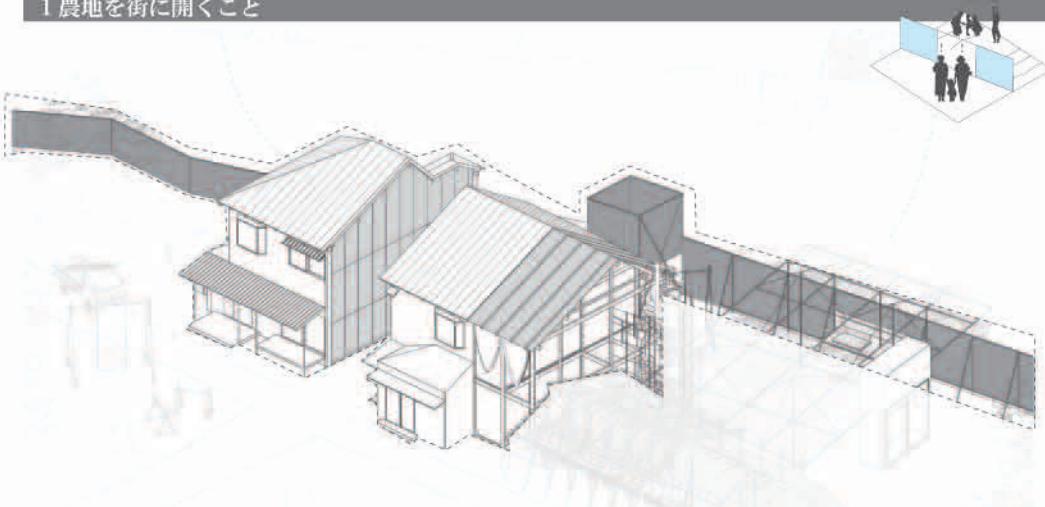
産業構造はだれでも作れる簡単なづくりになっており、すぐに壊すこともできる。生産財地という大きな愛称が下された場所において、みんなで作られて、愛をもたらすということは常に愛着を持ってもらう意味で大きな価値がある。



3・種を薄くこと

操作装置面を体験している感覚を慣順的に活用し、さらにいくつものパブリックベースを作っていく。これで体験画面中の操作感覚が確実に定着する。

1 農地を街に開くこと

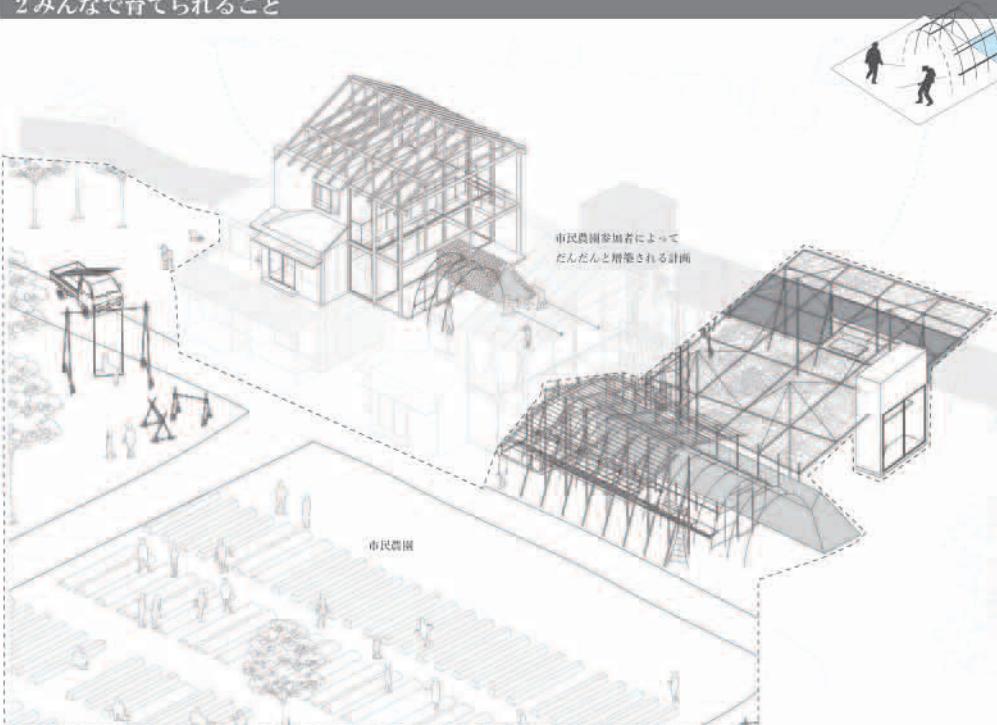


農地法によってできた境界が
まろと生垣・緑地をつなげる建築的創作になる。

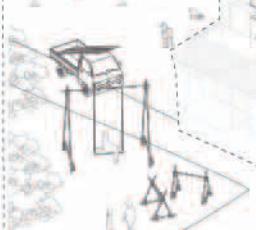
カフェのキッズからは農地に来る人・田舎の人
どちらとも顔をあわせられる



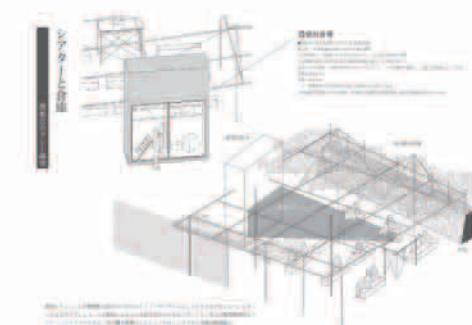
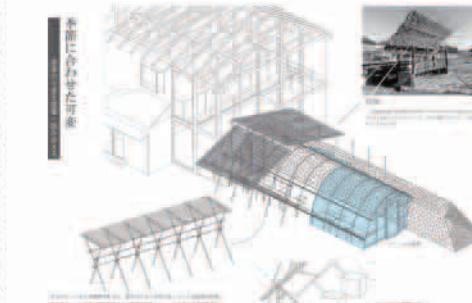
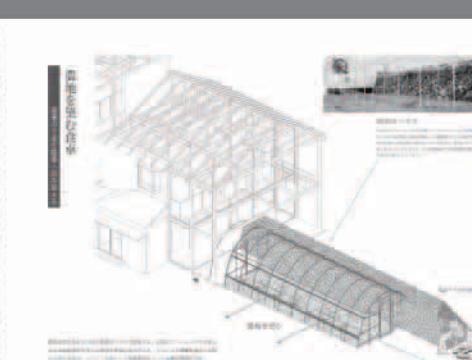
2 みんなで育てられること



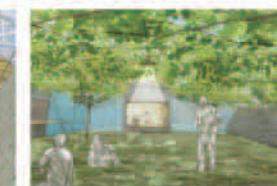
市民農園参加者によって
だんだんと増築される計画



市民農園

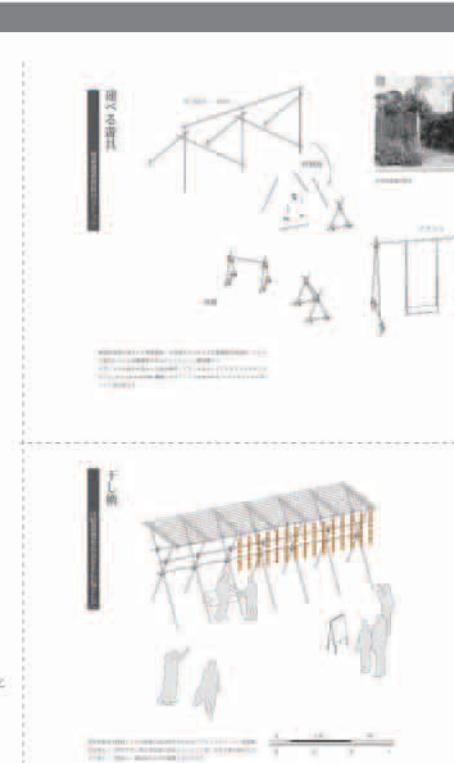
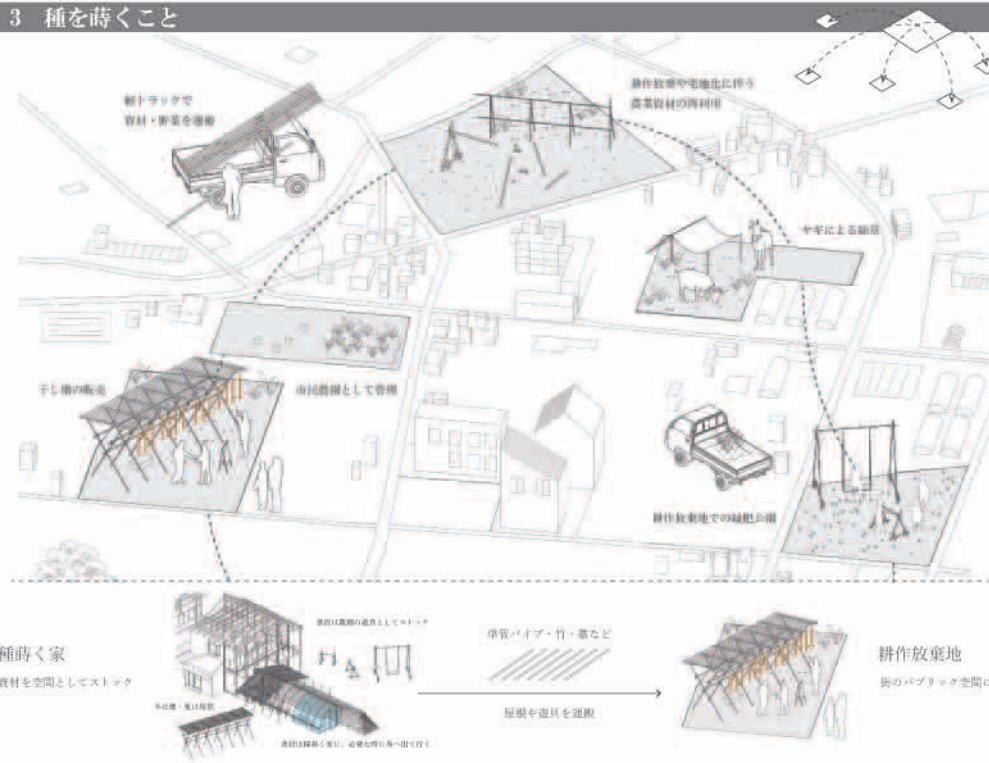


農地を望む食卓。季節の変わり目には
みんなで屋根の組み替え作業をする

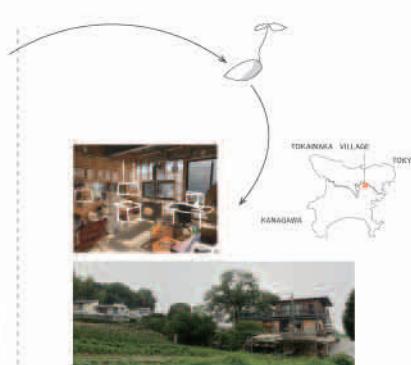
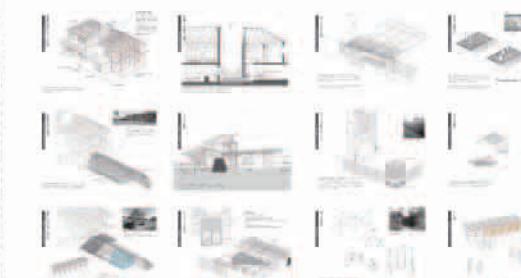


農地に建設可能な既設物の組み合せで
全く異なる居場所を作れる

3種を蒔くこと



展覧会・建築のアイディアから実際の農地へ



種蒔く家

この設計は分解し一つ一つの手法単位でも生産緑地に適用できるよう考えております。
コロナウイルスの影響で延期していますが、この手すり・サークルの展示会を生産緑地の農家カフェで計画しております。多くの人に農地の可能性を伝える、そんな「種蒔く家」を目指して。